

県指定 無形民俗文化財

蒲江神楽



蒲江神楽は、丸市尾に鎮座する富尾神社の4月5日、11月20日の大祭に奉納される神楽であり、佐伯神楽とほとんど親近感のない県下では特異な日向系岩戸神楽である。現社家の塩月氏は、天文元年(1533)丸市尾に移住してきた日向国三河内村北川の豪族高橋伊賀守の二男守元を祖とする。神楽は4代重本が享保年間に日向国三河内から伝授されたと伝えられている。地堅に始まり、手取に終わる十八番からなっており、この他に佐伯神楽から伝授されたという綱切・湯立の二番があり、これは祈願の際に随時奉納される。装束は毛頭の使用が目立ち、衣装は陣羽織の使用が多い。楽器は通常大太鼓、笛、手拍子のみであるが、綱切・湯立の二番では締太鼓も使われる。